

額田地域における公共ライドシェア導入に向けた検討状況について

1 概要

- 額田地域で運行するコミュニティバスにおいて利用者が減少している路線があることから、地域ニーズに沿った移動手段に改変していくことを検討する必要がある。
- 愛知県では、国の補助事業を活用し、地域交通の確保・維持のため、県内市町村での自家用有償旅客運送（公共ライドシェア）等の立上げ支援を実施することとしている。
- 愛知県が本市と連携し、住民が主体となって地域交通を考えるためのワークショップ等にコーディネーター役として専門人員を派遣することによって、合意形成や事業化への足固めをすることとしている。
- 10、11月で3回のワークショップを実施し、全5学区合計81名に参加いただいた。

【額田地域のコミュニティバスの年間利用者数の推移】

路線	主な起終点	利用者数（人/年）		
		R4	R5	R6
下山地区線	岡崎げんき館前～市民病院～下山地区	2,581	4,115	4,049
形埜地区線	北部診療所～形埜地区	342	136	103
宮崎地区線	宮崎診療所～大雨河～千万町地区	290	192	149
豊富・夏山地区線	額田センター～鳥川・夏山地区	261	147	151
合計		3,474	4,590	4,452

2 第2回ワークショップの結果

(1) 開催概要

日 時：令和7年10月23日（木） 18時30分～20時30分

会 場：額田センター集会室

参加者：5学区・32名

（総代、社会教育委員会、まちづくり協議会、老人会、社会福祉協議会 など）

議 題：1回の振り返り

公共ライドシェアの仕組み・事例の紹介（岡崎市からの説明）

地域に根差した移動について（グループワーク）

(2) 結果

- 公共ライドシェアという言葉が難しくわかりづらいことから、このワークショップの中では【ごきんじょさん～G.O.！近助参～】という愛称を用いることとした。
 ≪地域住民の移動（G.O.！）を確保するために 近くの人が（に） 助ける（助けてもらう） 活動に参加しよう！≫
- 第1回の際に出た公共ライドシェアに関する不安・疑問・知りたいことを解決できるような内容を中心に、岡崎市から公共ライドシェアの仕組みの説明や事例紹介を行った。
- 誰のため・何のために公共ライドシェアが必要なのか、地域の移動で本当に困っていること・必要としていることは何なのかなどを地域ごとに話し合い、第1回に比べ公共ライドシェアに関して、より具体的な議論が行われた。
- 地域の本当のニーズを把握することと運転手になり得る人はいるのかの2点を宿題として地域に持ち帰ってもらい、その結果を踏まえて来年度の実証運行の導入希望（第3、4回ワークショップの参加意向）を回答いただくよう案内した。

3 第3回ワークショップの結果

(1) 開催概要

日 時：令和7年11月27日（木） 18時30分～20時30分

会 場：額田センター集会室

参加者：実証運行に向けて参加：宮崎学区 6名

将来の検討等のために参加：形埜学区・下山学区 計7名

愛知県地域交通人材育成セミナー受講者 7名

その他（愛知県職員、岡崎市職員、岡崎市社会福祉協議会職員等）

議 題：公共ライドシェア実施に向けた設計と実施内容の具体化

(2) 結果

- 宮崎学区での実証運行実施を念頭に住民を中心とした議論の中に、岡崎市及び岡崎市社会福祉協議会の職員も交じり事業内容の検討を進めた。
- ごきんじょさん（公共ライドシェア）を実施する意義・目的の再確認。
宮崎学区の目指す姿：『豊かな生活を育んでいくためのライドシェアの実施』
- 実施主体は学区内に組織されている“宮崎学区まちづくり協議会”の中にライドシェアを主とした新たな委員会を立ち上げることを想定。
- 運転手は75歳以下の地域住民を対象に、学区福祉委員などに声掛けを行っていく。
- 運行区域は公共交通ネットワークとして、まずは地域の拠点であり、本宿駅や市民病院への路線バスが離発着する額田センターへの移動をイメージした体制を構築してはどうか。
←高齢者の利用を念頭に置くと、本宿駅やアウトレットモール、市民病院へドアツードアで行き来ができないか。という意見もあり。
- アウトレットなど、目的を決めたツアーの企画ができないか。という意見もあり。
- 引き続き、地域で検討を進めるため“宮崎学区まちづくり協議会”において市から説明して欲しい。←12月1日（月）に実施済み。

4 今後の進め方

- 来年度の実証運行の導入を希望した学区を対象に第4回ワークショップを開催し、具体的な運行計画を立てていく。
- 来年度の実証運行の導入希望に関わらず、公共ライドシェアに関して興味のある学区については、今後のワークショップには見学で参加いただくなどし、引き続き地域内交通を検討する機会を設ける。
- 地域の実情や作成した運行計画の内容を踏まえて、来年度、実証運行を導入する学区を選定する。

【今後のワークショップの予定内容】 ◆コーディネーター：パブリックハーツ 代表 水谷香織氏

	実施次期	テーマ及び内容
第4回	12月18日（木）	【テーマ】令和8年度に向けた計画の具体化 ➤ 令和8年度の実証運行の計画づくり ➤ 地域の運営体制の仮決定